

# 「愛媛の自然を守るために 非農家から農家へ」



松田 龍治 (32 歳) 新規参入  
(松山市)

## 1 就農の動機・理由

生まれも育ちも愛媛県で、特にかんきつに関しては周りを見渡せばどこもみかん山ばかりでとても身近なものだった。

しかし、近年、高齢化・担い手不足で耕作放棄地が増加している現状を知り、自分の中で、生まれ育った自然を守りたいという思いが強くなった。そんな中、前職でレストランに勤めていた時に、農家と触れ合う機会があり、もの作りに対する情熱を持った農家に憧れや尊敬の念を感じ、就農を決意した。

## 2 農業経営の概要

### ○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和3年)	現在の経営 (令和4年)	将来の経営 (令和7年)
労働力	男1人(本人) パート2人	男1人(本人) パート2人	男2人(本人他) パート5人
経営耕地	樹園地 396a	樹園地 396a	樹園地 500a
経営内容	伊予柑 100a はれひめ 60a 愛媛果試第28号 16a キウイフルーツ 56a 管理農地 164a	伊予柑 100a はれひめ 60a 愛媛果試第28号 16a キウイフルーツ 56a 管理農地 164a	伊予柑 100a はれひめ 60a 愛媛果試第28号 20a せとか 30a 甘平 25a キウイフルーツ 60a 管理農地 205a

### ○農業用施設

ビニールハウス 1棟(1600m<sup>2</sup>)  
農業用倉庫 1棟

### ○主要農業機械

軽トラック 2台  
動力噴霧器 1台  
刈払機 3台  
選果機 1台

## 3 あしあと

### (1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県伊予市

職歴 飲食関係(調理・サービス)

就農研修歴

JA えひめ中央

(H30. 2. 1~R2. 3. 31)

就農年月 令和3年4月

### (2) 就農時の思い

非農家で農業に関する知識を持っていない中で、前職とは大きく異なる農業の世界に飛び込んでいくのは少し不安だった。

## 4 就農時の取り組み

### (1) 技術の習得

主に JA えひめ中央新規就農研修センターでかんきつの生産技術を習得した。また、先輩農家との会話や作業を手伝わせていただいたことで、自身の経営のヒントを得た。

## (2) 資金の準備

前職やアルバイトの貯金に加え、JAの「おまかせ資金」や日本政策金融公庫の青年等就農資金を活用して経営を開始した。

## (3) 農地・住宅の確保

JA えひめ中央新規就農研修センターや先輩農家の斡旋により、約 400a の農地と倉庫を借用した。

## (4) その他苦労したこと

大きな面積を1人で管理しているので、労力不足に悩まされている。そんな中、県の普及指導員から「農福連携」について紹介を受けたので実際に実践してみると、とても熱心に作業をしていただけた。おかげで他の手をまわしたい作業に手をまわせるようになり、とても助かっている。今後も継続的に連携していきたい。

## 5 農業経営の特徴

主にかんきつやキウイフルーツを栽培している。まずはしっかりと土台づくりに努め、経営を安定することに重きを置きたい。その後、ゆくゆくは愛媛果試第28号や甘平などの単価の高い品種を導入していき、経営のさらなる向上を目指したい。

## 6 これからの夢

特に力を入れたいのは、作業の効率化と省力化である。栽培面積がかなりあるので、計画的に作業を進めていくことがとても重要。また、効率化により肉体的・精神的にも余裕ができ、栽培技術の向上に力を注ぐことが出来ると考えている。経営が安定してきたら、仲間と共に法人化や6次産業化に取り組み、地域の農業を守る経営体に成長したい。

## 7 成功したキーポイント

非農家で、もともとの土台がないながらも、人と積極的に接していくことで良いアイデアを自分の経営に柔軟に取り入れていけたと思う。

## 8 就農を目指す方へのアドバイス

先輩農家が行っていることを自身の経営に取り入れることはもちろんですが、自分なりのやり方を探り、確立していくことにより、さらに農業に面白みを見出せるのではないかと考えています。

### ○ 指導機関からのひとこと

松山地区青年農業者連絡協議会に所属しており、今年度は地区協議会理事として活躍していただきました。

自身の経営に熱心に取り組むのはもちろん、「農福連携」の実践により福祉事業所の利用者の就労機会の確保や自立支援にも貢献しており、今後も更なる活躍が期待されます。

## 執筆機関

中予地方局農業振興課地域農業育成室  
電話番号 089-909-8762



農福連携を実践